

平成17年度 全国学校体育研究協議会・第44回全国学校体育研究大会の思い出

富山県・富山市立奥田小学校 校長 舟木 浩二

平成17年11月に富山県で初めての学体研全国大会が開催された。この大会は私個人にとっても富山県の学校体育関係者にとっても大変大きな意味を持つこととなった。

メールマガジン続き

冒頭から、個人的なことで恐縮だが、私はこの年に初任校長になったばかりで、学校経営だけでも何をどうしたらよいかわからない状況で、実行委員会の事務局長を引き受けてしまった。今思えばなんと無謀なことを、と背筋が寒くなるが、県内の学校体育の仲間の協力と、岡出美則先生や友添秀則先生の心強いバックアップのおかげでなんとかやり遂げることができた。お二人の先生には本当に感謝している。岡出先生・友添先生には、その後も何度も富山県にきていただいてご指導をいただいている。個人的には、このような全国の学校体育のリーダーといえる先生方と知り合いになれたことは、私の学校体育人としての大きな財産となっている。

さて、この富山大会の開催までもいろんな紆余曲折があったと先輩から聞いている。一番大きな難問は、富山県はコンパクトな県といわれているにもかかわらず、小・中・高の学校体育関係者が交わる場は競技会等を除いて皆無であったことである。ましてや幼稚園や特殊諸学校（現・特別支援学校）との交流ももちろんなかった。恥ずかしい例であるが、全国学体連の年会費等も一部の有志が私費を出し合って支払っていた。この関わりの全くなかった校種間において、学体研富山大会を開催することの「趣旨・意義」について、意思の疎通を図り、共通理解を深めていくのにとても時間がかかったのである。

ただ、そこはお互いに体育人、そしてきまじめな富山県人であるから、校種の代表が何度も話し合い、一つずつ地道に解決していく中で連帯感が生まれ、共通の目的意識が明確になってきた。県内の学校体育関係者のベクトルが一致し、子供たちのために体育の授業はどうあればよいか、各々が自分の校種で考えることはもちろん、幼児から高校生までの長いスパンで系統的に考えていくことができるようになった。校種間で、お互いが理解し合い刺激し合えたことが切磋琢磨を繰り返すこととなり、かけがえのない研究同人・仲間となっていったように思う。学体研富山大会が、県内の学校体育の研究レベルを大きく引き上げたといえる。

研究面だけでなく大会運営に関しても、大会の成功に向けて各校種の係員が協力し合い、ここでも心が一つになっていった。もちろん、大会運営については失敗もたくさんあり、当時の浅田隆夫学体連会長様をはじめ、本部の先生方や、全国から集まっていた多くの先生方に、多々迷惑をおかけしたことは申し訳なく思っている。2日間の一秒一秒がとても長く感じられ、冷や汗の連続であったことが思い出される。

また全国から、当初の予想を大きく上回る予約状況となり、大会間近になってあわてたこともたくさんあった。今となってはよい思い出であるが、全体会場に入りきらず、やむなく県内会員はモニター会場による参加となってしまったことなどである。

この大会の開催を機に富山県にもしっかりと、「富山県学校体育研究会」が組織され、現在に至るまで協力し合って研究を進めている。富山県の学校体育関係者はもとより、富山県の教育界が大きく前進した大会であった。

終わりになるが、私の学校体育への関わりはこれで縁が遠くなると思われる。大変寂しい思いがするが、皆様からいただいた財産を、後輩の人たちに少しでも伝えていける機会があればうれしいと思っている。

全国の学体連関係者の先生方の、今後のご活躍・ご健勝を記念して拙文をとじたい。